



2013年5月、アメリカ精神医学会は*精神疾患の診断・統計マニュアル第5版(DSM-5)*を発行しました。DSM-5と前版のDSM-IVの間には重複部分がほとんどですが、複数の重要な相違点があります。

障害／疾患用語の変更

- ▶ DSM-IVでは、アルコール乱用とアルコール依存の2つの異なる疾患について、それぞれ具体的な基準が記載されていました。
- ▶ DSM-5では、DSM-IVでは2つの疾患であったアルコール乱用とアルコール依存症を、アルコール使用障害(AUD)と呼ばれる1つの疾患に統合し、軽度、中等度、および重度に下位分類しています。

診断しきい値の変更

- ▶ DSM-IVでは、乱用と依存の診断基準は次のとおり異なっていました：12か月間に1つ以上の「乱用」の基準(次ページの1~4項目を参照)に該当する場合、「乱用」と診断します。同じ12か月間の期間中に、「依存」の基準(次ページの5~11項目を参照)の3つ以上に該当する場合、「依存」と診断します。
- ▶ DSM-5では、同じ12か月の期間中に11の基準のうち2つに該当する場合、AUDと診断されます。AUDの重症度(軽度、中等度、または重度)は、該当した基準の数に基づき決定されます。

基準の削除

- ▶ DSM-5では、基準から法的問題が削除されています。

基準の追加

- ▶ DSM-5では、AUD診断の基準に渴望が加えられました。渴望は、DSM-IVには含まれていませんでした。

説明内容の訂正

- ▶ DSM-5では、基準の説明の一部を修正し、内容が更新されました。

DSMの歴史および背景

*精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM)*は、当初、米国の精神疾患に関する統計情報を収集する必要性から開発されたものです。精神衛生に関する情報を収集するこの初めての試みは、1840年に米国で実施された国勢調査から開始されました。1880年に実施された米国の国勢調査では、国勢調査局により、7つの精神疾患分類が開発されました。1917年には、国勢調査局が米国全土にわたって精神病院から統一された統計の収集を開始しました。

それから間もなく、アメリカ精神医学会とニューヨーク医学アカデミーが共同で、重度の精神疾患および神経障害患者の診断用に「全国的に使用可能な精神医学用語集」を作成しました。第1次世界大戦後、米国の軍人および退役軍人援護局は、退役軍人に影響を及ぼす障害を含めるよう用語集を拡大しました。

1952年に、アメリカ精神医学会委員会が*精神疾患の診断・統計マニュアルの初版*を刊行しました。*精神障害(DSM-I)* DSM-IIには診断分類を説明する用語集が含まれ、臨床診断のためのマニュアルとして使用する方法についても重点がおかれました。DSM-IIIは、DSM-Iと極めて類似しており、1968年に刊行されました。1980年に刊行されたDSM-IIIでは、現在ではDSMの特徴と認識されている様々な疾患の明確な診断基準を含む数点の革新的な要素が導入されました。DSM-III-Rと呼ばれるDSM-IIの1987年に実施された改訂版では、基準の一部を明確化し、診断システムの矛盾も対応されました。DSM-IVは1994年に刊行され、包括的な学術文献のレビューを実施し、次の改訂版の実証的根拠が強化されました。DSM-IV-TRは2000年に刊行されたDSM-IVの改訂版で、診断に関する情報が追加されました。1952年以降、DSMの各後続版は、広範囲な病態を理解し診断する医師の技量を向上させることを目的としてきました。

DSM-IV	
過去1年間に、以下に該当することがありましたか？	
1(いずれでも) = アルコール乱用	飲酒(または、飲酒による体調不良)によって、家庭や家族の世話が妨げられることが頻繁にあったか？あるいは、仕事上の問題を起こしたか？または、学校で何か問題があったか？
	飲酒中または飲酒後に、負傷する(運転、水泳、機械の使用、危険な場所を歩く、危険な性行為など)可能性を高めるような状況に2回以上陥ったか？
	飲酒が原因で、逮捕、警察署での拘留、または他の法的問題が2回以上あったか？ **これはDSM-5に含まれていない**
	飲酒によって家族や友人との間に問題が生じているにもかかわらず、飲酒を続けたか？
3(いずれでも) = アルコール依存	望む効果を得るために、以前よりもはるかに多量を飲酒しなければならなかったか？または、通常通りに飲酒してもその影響が以前に比べてはるかに少ないことに気付いたか？
	アルコールの影響が薄れたときに、睡眠障害、震え、落ち着きのなさ、吐き気、発汗、激しい心臓の鼓動、発作などの離脱症状が生じたことが判明したか？あるいは、実際にはないのに何かが存在すると感じたか？
	意図したよりも飲酒量が増えたり飲酒時間が長くなったりしたことがあったか？
	飲酒量を減らしたい、または飲酒を止めたいと思った、あるいはそのような試みを2回以上行ったが、できなかったことがあったか？
	飲酒に多くの時間を費やしたか？または、病気になったり、後遺症が残ったりしたか？
	飲酒のために、あなたにとって大切または関心がある、または楽しみの源であった活動を断念したり減らしたりしたか？
飲酒によって気分が落ち込んだり、不安になったり、健康上の問題が生じたりしたにもかかわらず、飲酒を続けたか？または、記憶障害を経験した後も飲酒を続けたか？	

DSM-5	
過去1年間に、以下に該当することがありましたか？	
1	意図したよりも飲酒量が増えたり飲酒時間が長くなったりしたことがあったか？
2	飲酒量を減らしたい、または飲酒を止めたいと思った、あるいはそのような試みを2回以上行ったが、できなかったことがあったか？
3	飲酒に多くの時間を費やしたか？または、病気になったり、後遺症が残ったりしたか？
4	飲酒したいあまり、他に何も考えることができなくなったか？ **これはDSM-5に新規に追加された**
5	飲酒(または、飲酒による体調不良)によって、家庭や家族の世話が妨げられることが頻繁にあったか？あるいは、仕事上の問題を起こしたか？または、学校で何か問題があったか？
6	飲酒によって家族や友人との間に問題が生じているにもかかわらず、飲酒を続けたか？
7	飲酒のために、あなたにとって大切または関心がある、または楽しみの源であった活動を断念したり減らしたりしたか？
8	飲酒中または飲酒後に、負傷する(運転、水泳、機械の使用、危険な場所を歩く、危険な性行為など)可能性を高めるような状況に2回以上陥ったか？
9	飲酒によって気分が落ち込んだり、不安になったり、健康上の問題が生じたりしたにもかかわらず、飲酒を続けたか？または、記憶障害を経験した後も飲酒を続けたか？
10	望む効果を得るために、以前よりもはるかに多量を飲酒しなければならなかったか？または、通常通りに飲酒してもその影響が以前に比べてはるかに少ないことに気付いたか？
11	アルコールの影響が薄れたときに、睡眠障害、震え、落ち着きのなさ、吐き気、発汗、激しい心臓の鼓動、発作などの離脱症状が生じたことが判明したか？あるいは、実際にはないのに何かが存在すると感じたか？

これらの症状のうち2つ以上の症状がある場合、**アルコール使用障害(AUD)**とされる。

AUDの重症度の定義は以下のとおり:

軽度:
2~3つの症状がある。

中等度: 4~5つの症状がある。

重度:
6つ以上の症状がある。

